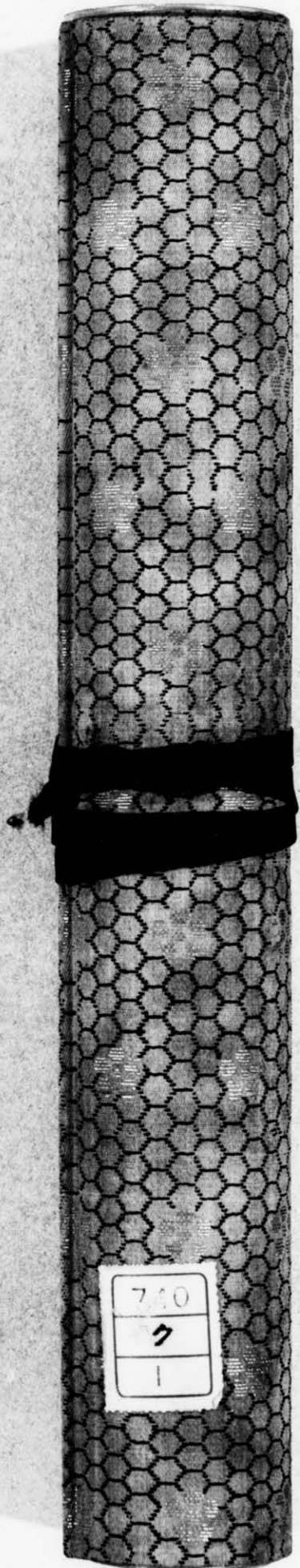


0 150 cm 10 20 30

SEKISUI JUSHI



710
7
1



新編
古今
通志

花鳥十二月

筆者之目錄

正月

近衛左大臣

二月

照高院文

三月

妙法院文

四月

青蓮院文

五月

飛鳥井一位

六月

日野右大臣

七月

柳原右大臣

八月

菊亭右大臣

九月

中院右大臣

十月

花山院右大臣

十一月

子規右大臣

十二月

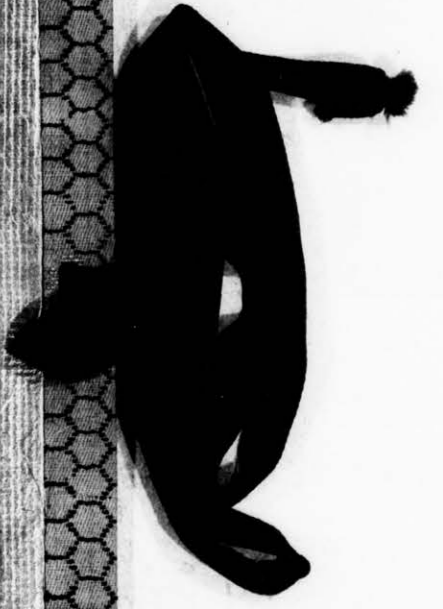
持明院宰相

Handwritten vertical text in cursive style, possibly a signature or title.

柳

白

740
7
1



柳

うさぎたのむらさき

毛むらさき

鳥物

鶯

春の鳥

朝戸

萬

二月

景

二月

櫻

柳頭おろみちゆきふ

あしとまて桜うほ帯

如存れ

雄

鴉人 まら 新 た 歌

春の日はまき ま 雄の

息に ま 魂

三月

藤

控く書好く見たりや嘆

友れ花地を去るに後乃

色能いりる

雲雀

来りしこころ書雀れ床に

やあかりを錦臥籍に

く良辰春日哉

く良辰春日哉

四月

卯辰

白妙乃夜

夏

夏

夏

夏

夏

はらへりてしるすのり

五月坊

五月

通橋

なとていひてりて月

ややうはよからとてりて

のりてりてりて

水鶏

換れりてりてりて水鶏の

りてりてりてりてりてりて

換比 戸をそとく 水鏡の

何字はの一人やうやうは

ゆの浪うはらう

六月

常夏

たけふ乃わつやうはらう

これいよのいよはらう

心ふたふたはらう

鶴

鶉

今一丈の鶉川に

鶉川に鶉川に

六月

九月

七月

女郎花

秋からきくはれもあし

きくはれもあし

星合あし

あまのこゝろをなぐさむ

あまのこゝろをなぐさむ

鶴

あまのこゝろをなぐさむ

あまのこゝろをなぐさむ

あまのこゝろをなぐさむ

八月

麻鳴草

あま

あまのこゝろ

あま

あま

あま

麻鳴草

あき

まげぬ

いしあ

こと

ゆくせに

初雁

あつ先ひくあし

松のうにうらうら

初ふゆ

なぐ

うら

あ

あきの

あ

九月

九月

薄

花より希ま乃くもは

あしはなはるるもくもは

秋の道は

鶴

人先くもくもは

道ぬもくもは

もくもは

十月

残菊

神世より月霜の葉の葉は

もはらひ秋の風は

たのむさか

鶴

夕日うけしれは田鶴

かきとむのさる

かきとむのさる

十一月

枇杷

物持乃り是事集好くは

高徳多ふとてさうぬいし

きねうきあふは

千鳥

比と東かりて事集好くは

与波野好くは想ふは

屋の好くは乃地と夫

十二月

子物

子物

子物

子物

に

子物

子物

子物

子物

子物

水

子物

子物

子物

子物

筆者

近衛光大后基概公

照高院二品法親王道見

妙法院入道三品法親王光慈

青蓮院入道三品法親王尊證

飛鳥井一位前大納言雅章

日野市大納言弘資

柳原市大納言資行

菊亭市大納言公親

中院市大納言通茂

花山院市大納言定誠

千種市大納言有能

持月院宰相基時

正月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

八月

菊亭大納言公親

九月

中院前大納言通茂

十月

花山院前大納言定誠

十一月

千種前大納言有能

十二月

持明院宰相基時